

校長先生の初恋物語

第27話 アマーラさんの素顔

アマーラさんは、とっくんとちん君に素顔を見せてくれました。まったく顔が分からないくらいの前髪をかきあげて、ゴムでしばってくれました。その顔は、びっくりするほど、かわいらしい顔でした。とっくんの心に、ハートの矢が突き刺さりました。

「とっくん、ちん君、ありがとう。」

素顔を見せたアマーラさんが言いました。

その後、毎日ちん君のお寺に集合するようになりました。仲のいい足長君やきんに君の遊びのさそいも断り続けました。

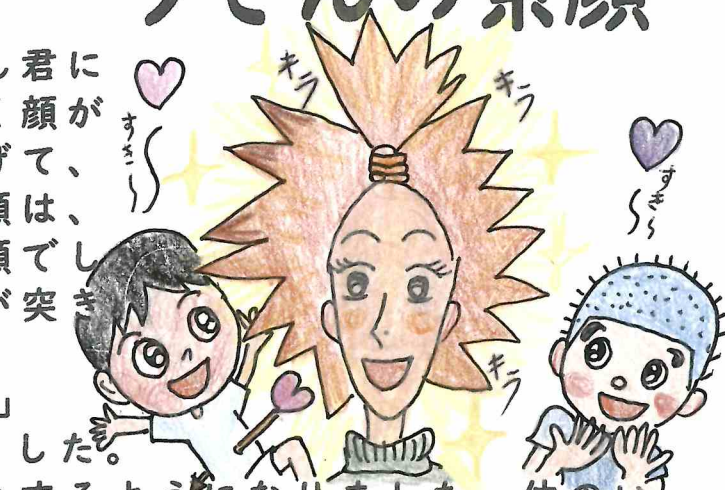
3人が夢中になっていたのは、「ミッタのしるし」をつくることです。3人はこうたいで木を切って、「ミッタのしるし」をつくりました。それは1人1人が持っている木の切れはしが、三つ合わせると、ミッタの文字となるものです。できあがったときには、3人で何度も何度も合体させてみました。一番うれしそうだったのは、アマーラさんでした。でも、アマーラさんはふしぎがりました。それは、3人のミッタのしるしを合体させても、最後の一文字がないことです。ちん君ととっくんには、まだこの時、アマーラさんには言えないひみつをかくしていました。

ちん君が、アマーラさんに次の作戦のことを話しました。

作戦2 アマーラさんのいうわさを広げる作戦

お寺では素顔を見せ、よくしゃべるアマーラさんですが、学校では相変わらず、まったくしゃべりません。ちん君ととっくんも、コージ君や他の男の子たちの目が気になって、なかなかアマーラさんのところに行く勇気が出ません。でも、だからといって、何もしていないわけではありません。ちん君ととっくんの作戦2は、ひそかに行われていました。

とっくんは、いつも朝一番に教室に登校します。みんなが来る前に、作戦を実行します。黒板のすみに、チョークで小さく書いてお



くのです。「アマーラさんがいるから、クジャクの飼育当番が、いつも安全にできるね。ありがとう」そうなんです。アマーラさんが来てから、クジャクのひがいをうけている子はいなくなりました。そのことへの感謝を、黒板のかたすみに書き続けました。また、きんに君や足長君にも、そのことを話すようにしました。とにかく、アマーラさんのいうわさをみんなに広めること。それが、ちん君が考えた作戦2です。

ちん君も、いろんな友達と話をするときに、アマーラさんのいうわさを話していました。

「アマーラさんって、いい人かもよ。この前、1年生の子が運動場で転んだら、ハンカチを水で濡らして、血をふいてあげてたよ。」

これも、本当の話なんです。

とっくんは、仲のいいよしこさんやダンプさんにも話をします。

「アマーラさんって、性格いいと思うよ。だって、絶対に人の悪口言わないじゃん。」

これも本当の話。

そうです。アマーラさんのことを知れば知るほど、アマーラさんがいい人だってことが分かります。みんな知らないだけです。ちん君ととっくんは、どうして男の子たちがアマーラさんを見無視するのか、その理由がだんだん分からなくなっていきました。

ちん君と、とっくんの地道な作戦が続きました。時には、「とっくんは、アマーラさんのことが好きなのか。」と、コージ君からいじわるい質問をされることもありました。そんな時はうまくごまかしました。この作戦はむだではなくて、じわりじわりときいてきました。みんなからのムシは相変わらずですが、アマーラさんの悪口はたしかにへっていきました。

「とっくん、そろそろ次の作戦だね。」

「うん。ちん君。次の作戦3に移ろう。」

ミッタの作戦3は、一番むずかしい作戦です。アマーラさんもしやがる作戦だったのです。



次回予告 むちゃな作戦